

津ライスニュース 令和元年産第3報

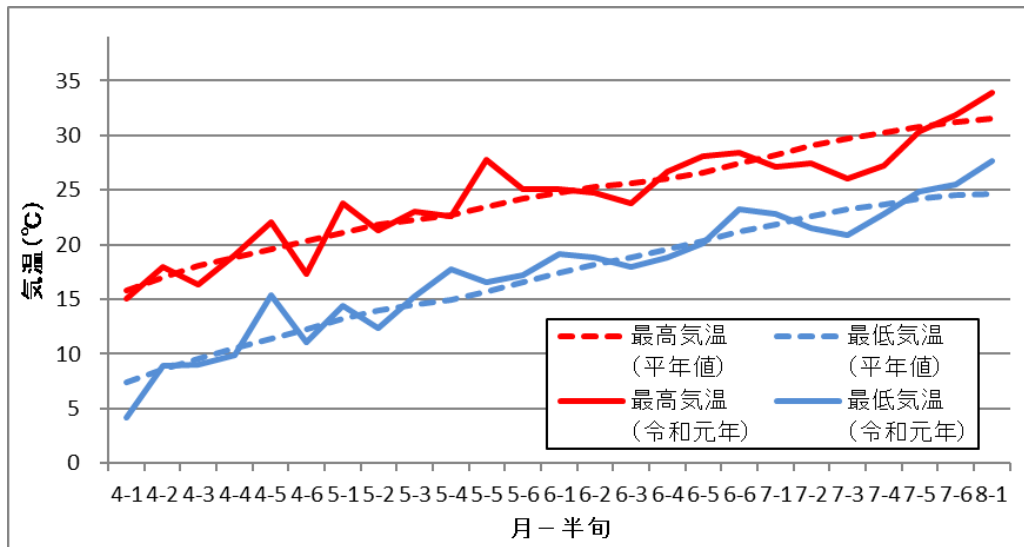
令和元年8月13日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

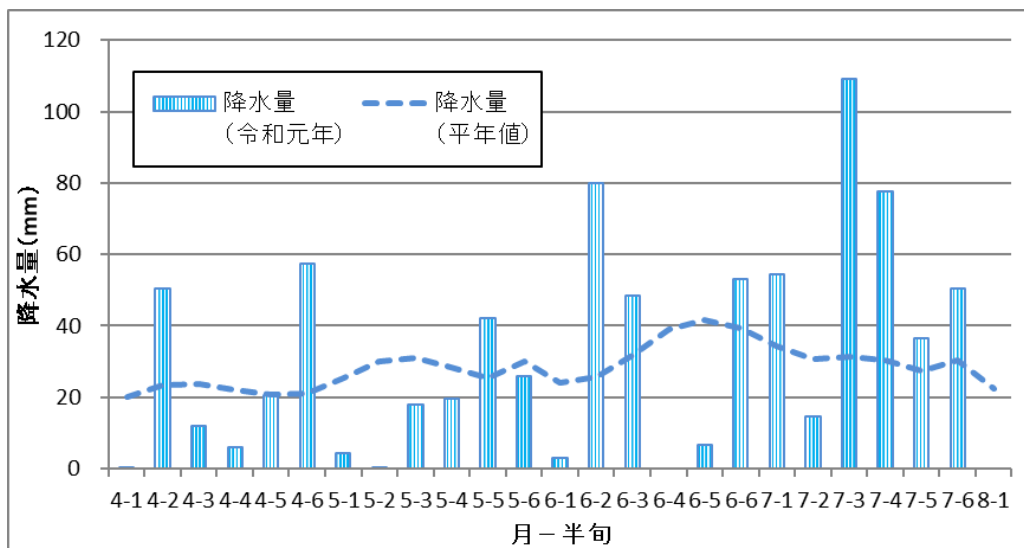
<気温>

4月上旬、5月中旬と最低気温が低い日があり冷え込みましたが、6月中旬以降気温は高く推移しました。しかし、7月に入り天気のすぐれない日が続いたため気温は低く推移しました。7月下旬以降、気温は高く推移しています。



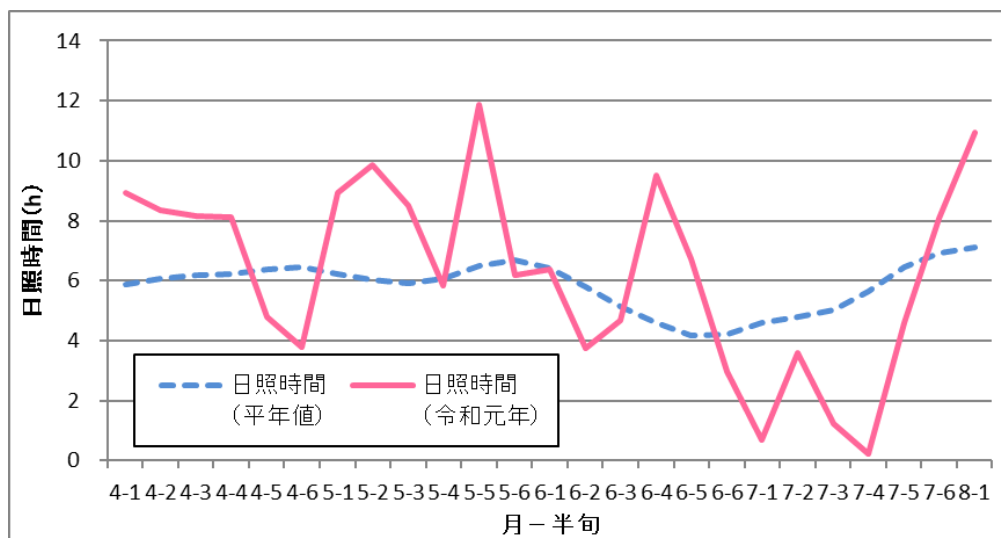
<降水量>

6月までは平均より降水量は少ない状況でしたが、7月に入り降水量は多くなりました。



<日照時間>

5月までは4月下旬を除き晴れた日が多く推移していましたが、6月に入り曇りの日が多くなりました。その後、一時天気は回復しましたが、7月に入り天気のすぐれない日が続いたため、日照時間は少なくなりました。



生育の概況

7月の曇天や降雨の影響等によって生育は若干遅めに推移しています。農業研究所(嬉野)作況田でのコシヒカリの生育状況は、出穂期は7月18日(平年の出穂期は7月15日)となっています。

一部ほ場では、天気がすぐれない日が続いたことからいもち病の発生やイネの徒長等による倒伏が散見されています。

○水稲生育基準田の調査結果

【令和元年8月9日現在】

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m ²)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月18日	91.5	18.1	411.1	27.7	7月20日
	安濃	4月25日	87.9	18.3	302.8	19.6	7月23日
	白山	5月1日	95.6	17.9	349.8	21.6	7月29日

○水稲生育基準田の調査結果(過去の調査データの平均値)

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m ²)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月21日	90.8	18.9	332.6	27.1	7月18日
	安濃	4月24日	81.2	19.3	247.0	16.2	7月19日

※殿村のデータはH24、H27、H28、H29の平均値

※安濃のデータはH28、H29の平均値

○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ(平年値(H21~30))

品種	年度	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂期
コシヒカリ	平年値(H21~30)	86.8	18.9	403.1	7月15日

※移植日:4月25日前後

※H24は欠測扱い

今後の栽培管理

<水管理>

- ・水稻の根数は出穂前20日頃に最大となり、出穂期には新根がほとんど出なくなります。水の溜めすぎは根の老化や根腐れの原因となります。出穂後から収穫7日前までの期間は間断灌水を心掛け、根に空気を供給しましょう。水をかける場合はなるべく夕方にしましょう。
- ・早期落水は未熟粒や胴割れ米等の発生を助長し、玄米の品質低下が懸念されます。落水は収穫前7日以降としましょう。

※台風時の水管理

台風時はイネの蒸発散が盛んになり吸水量が多くなります。台風情報などに注意し、早めに深水湛水を行いましょう。深水湛水はイネの激しい振動を防ぎ、物理的損傷の軽減にも期待できます。また、台風通過後は快晴となることが多く、イネは茎葉の損傷を受け蒸発散が活発になりやすいので、台風通過後も数日間は湛水状態としましょう。

<斑点米カメムシ類等対策>

出穂期になるとカメムシ類の本田への侵入が増加します。作期分散のために早生や晩生品種の導入が進んでおり、周囲より早く出穂したほ場や遅く出穂したほ場はカメムシ類が集まりやすく、特に被害を受けやすいので防除が必要です(ただし、成分回数や使用時期、特に収穫前日数に注意してください)。

<適期収穫>

- ・穂の基部に緑色籾数が3~4粒程度残る頃が収穫適期です。また、コシヒカリでは籾水分が26~28%の頃が収穫適期となります。
- ・早刈りは未熟粒(青米や充実不足)の増加、刈り遅れは茶米や胴割粒の増加となり、いずれも品質が低下します。品質向上のために適期収穫を励行しましょう。

○水稻生育予測

【令和元年8月13日現在】

品種	移植期	出穂期の予測日	成熟期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	7月22日	8月25日	(4.2日遅い)
	5月15日	8月1日	9月3日	(2.7日遅い)
三重23号	4月25日	7月15日	8月16日	(0.5日遅い)
	5月15日	7月27日	8月27日	(0.6日早い)
みえのゆめ	5月15日	8月5日	9月9日	(2.0日遅い)
	5月30日	8月24日	9月27日	(5.3日遅い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による生育予測です。

気象庁アメダス津観測地点データ(直近10年の平均気温)を使用しています。

<乾燥調製>

- ・高温での急激な乾燥は水分ムラが生じやすく、胴割粒の発生が多くなり、食味の低下も著しいので、平均の毎時乾減率は0.8%を超えないようにします。特に立毛胴割れが生じている可能性がある場合は、毎時乾減率を0.5～0.6%程度とします。
- ・仕上水分は14.5～15.0%を目標とします。粳水分が高い場合や青未熟粒の混入が多い場合には、水分の戻り現象が現れます。粳水分18%程度で一度乾燥を停止し、粳同士の水分差を小さくしたうえで再度乾燥すると品質への影響が少なくなります。
- ・カメムシ類等による着色粒が多い場合は、色彩選別機により等級アップを図りましょう。

<収穫後耕起>

- ・収穫後、台風などの大雨の影響で稲わらの流出が問題となっています。
- ・大雨による稲わらの流出防止、漏生粳等の対策のため、収穫後できるだけ早く浅耕(5cm程度)しましょう。